

龍の寺



奈良県の中央西端、金剛山の南麓に広がる五條市。その北の山間の村に、かつて、龍がしばしば現れては、村人らを恐れさせていた。稗や粟畑を荒らし、牛や鶏をさらっていく。

ある夏の終わりのこと。その年は久々の豊作で、村人らは「今年こそは腹いっぱい食べられる」と大喜びであった。

ところが、ふいに、金剛山のの上に黒い雲が湧き、誰かが「龍の雲だ」と叫んだ。突如、金色の稲妻が走り、あの恐ろしい形相の龍が襲いかかってきたのだ。体長は五尋(約十メートル)、

頭には尖った角、鱗が光る太い胴体と鋭い爪の足。目は真っ赤に燃えていた。悲鳴をあげ、死に物狂いで逃げ惑う村人たち。

と、そこへ、一人の行者が通りかかった。行者は数珠を振り上げて必死に祈り、ついにその呪力で龍を退治した。

龍の体は三つにちぎれた。それぞれが落ちたところに龍頭寺、龍胴寺、龍尾寺を建て、村人は手厚く供養した。今、三寺が併合されたときされる草谷寺が北山町に残る。

巨大な龍が伏せたような、不気味な静けさをたたえて南に続

く金剛の山並み。大きく蛇行し滔々と流れる吉野川。ここ五條市は、かつては、交通の要衝、宿場町として賑わった。

東へは伊勢街道、西へ紀州街道、南へ西熊野街道、北へは奈良に続く下街道。さらに、奥吉野で伐られた材木は筏で吉野川を下り、紀州へ運ばれた。五條はその集散地。また江戸時代には代官所が置かれ、行政の中心ともなった。

今も、旧紀州街道にあたる新町通りには江戸、明治時代の古い家並みが残る。煙出しのついた瓦屋根に白壁、格子の窓。造



龍の尾が落ちたといわれる場所に建つ草谷寺

草谷寺へはJR五条駅より北へ約5km。新町通りへは南西へ約1km。吉野川祭り会場(大川橋上流川原)へは南へ約1km。



り酒屋や餅屋の看板。遠い昔に迷い込んだような懐かしさだ。その中に、今も人々が住み、生活が息づいている。

八月十五、十六日に吉野川の大川橋上流川原で開かれる「吉野川祭り」。花火が華麗に夜空を焦がす。やがて、暑かった夏もゆっくりと去り、ふと涼風が忍び寄る。



江戸、明治時代の街並みを残す新町通り